

住民の安心安全と業務効率化を両立！（宮崎県都城市）

～新しい避難所の形を体現したデジタルケア避難所の構築～

取組概要

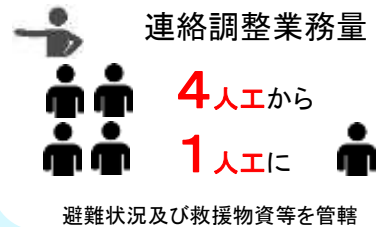
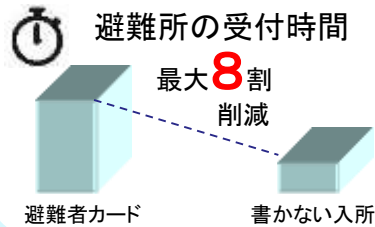
災害が激甚化・頻発化し、新型コロナウイルスへの対応も求められる避難所の管理運営をデジタル化することにより、**業務効率化と住民の安心・安全**を両立する

- ・デジタル弱者も含めて、誰一人取り残されないよう配慮した避難所の**書かない入所**を実現
- ・避難者情報を災害対策本部に**リアルタイム**に共有
- ・避難所の混雑状況を**リアルタイム**に住民に可視化
- ・在庫情報の共有及び今後の需要予測と**国のシステムへのデータ連携**を意識した仕様
- ・避難人数等を定点観測できるようにし、マスコミ等への情報提供労力を**省力化**

人口 162,544人 (R4.1.1現在)

担当 デジタル統括課

取組の効果



避難者情報が
リアルタイムに活用可能に！

身分証・カード・QR・口頭受付と多チャネル



書かない避難所受付

「誰一人取り残さない」書かない入所

創意・工夫した点

誰一人取り残されない

- ・マイナンバーカード非保有者やデジタル弱者の利用も想定し、複数の受付手段を用意

時代に即した新しい開発手法

- ・開発段階から7自治体と官民共創でシステム要件定義が出来たため、事務フローの見直しを行いながらシステムを構築

他団体へのアドバイス

最小化: 財政負担

- ・他自治体との共同利用を前提とすることで安価で持続可能なシステム構築が可能に

最大化: 業務改善効果

- ・デジタルのみで解決しようとするのではなく、BPR等の業務改善手法を並行してデジタル化を図ることで効果はより大きくなる

